



発行所： 保育総合研究会事務局 H22.11.19  
茨城県東茨城郡茨城町上飯沼1276-1 飯沼保育園内  
TEL029-292-6868 FAX 029-292-3831  
発行人： 会長 柁 沢 幸 苗

平成22年10月14日(木)午後1時から、アルカディア市ヶ谷私学会館において第35回定例会が行われた。

## 講演 I <テーマ>「環境が及ぼす地球・子どもへの健康影響等について」

<講師> 国立環境研究所 環境リスク研究センター

地球が温暖化している。このことで、直接健康の影響は熱中症問題である。最高気温が30度を越えた辺りから患者が発生している。30度以上は真夏日であり真夏日が現在は非常に増えてきていることから温暖化が考えられる。また世界の平均気温も上昇傾向にある。

温暖化している根拠データの1つに、気温の変化がある。気温は1000年前から計測また計測が無い時代は年輪から推測する。すると、1900年代から温暖化原因であるCO2が大気中の濃度に増加されている。他にも大気中のCO2の濃度が、南極の氷の中にフリーズされて残っているのを調査するとCO2の増加に気温の上昇が影響していると考えられる。いわば私たちは化石燃料を利用して、快適な生活を送ってきている。その結果様々な化学物質を排泄してCO2濃度を上げてしまい地球温暖化につながってしまっている。

このままCO2の排泄量が変わらなると、100年後位に50cmも海面が上昇する。この状態は、生物としての人は残ると考える。しかし私達は文化があって生活してきた。よって急激に環境が変化すると人間の意識は変化できずその現象に耐えられないと考える。つまりこのことが地球環境問題であると考えられる。

2050年までにCO2の量を半分に努力をすることで2度下がる。減らすためには調整できる部分からと考えるが、意外にも排出量の多いのが家庭である。私達は化石燃料(石油・石炭)を利用して快適な生活を送っている。快適な生活を送りたい願望と今後どうしたらいいか減少できるか、子ども時代からイメージを持ってもらうと温暖化がよくなるのではと考える。

また化学物質の環境への排出量も環境リスクを減らす制度としてPRTR制度を設けている。化学物質は、体内に入るとナカナカでなく、その上自然に戻らず且つ長距離を移動するという望ましくない性質があるため環境や人間への悪影響がある。人の健康と環境を保護するために化学物質を作って管理できるような化学物質審査規正法の取り組みがある。

クロスカップハングの発明のおかげで、自由に新しい化学物質を作ることができるようになった。そのことによって化学物質は急増している。



よって環境へ影響は致死量ではないが軽微な影響は無視できず免疫系・内分泌系・自立神経系の影響がある。とりわけ子どもたちは、心身が未発達で成長過程にあるためそれに応じた生活環境や行動となる。だから子どもたちは、化学物質などの環境汚染に傷つきやすく、心身においても、異常の増加がみられる。これらの関連が、事実かどうか国立環境研究所が10万人規模の親子を15年間疫学調査するということがスタートされた。

### <Q&A>

Q ダイオキシンの影響により、知的発達や社会性を司る能力は劣ってしまうのか

A ダイオキシンのみに限定せずに考えたい。動物実験結果ではある一定の科学物質が発達学習の能力に影響を与えているのは事実である。しかし動物実験で起こったことが同様に人間に起こらない。めったに起こらない影響をどう見つけるか。また影響の出るぎりぎりの濃度で決めている。

Q 子ども達の身体の悪影響を極力避けるために私たちにできることは

A 例えば殺虫剤を使いすぎないこと適正に使用することを前提で考えている。

Q 気候の変動に影響を与えているのは太陽活動が主なものでは

A 与えていないことはないが、私は今の温暖化の原因は95%がCO2であると考え。色々原因があって主原因はナカナカわからないがCO2の対策はしなくていいとは思えない。

## 講 義

<テーマ> 「自己評価の個人・施設集計で資質向上を目指して」

～自己チェックリスト100Excel版～

<講師> 当会事務局次長 菊地 義行

「自己チェックリスト100」は、手作業でチェックすると時間がかかります。そこで、自己チェックリストをExcelで作りました。

これにより、

- ・400項目をボタン操作でチェックできる
- ・結果をレーダーチャートで見ることができる
- ・自分の苦手な項目のチェックができる
- ・管理者への提出用データが作成できる
- ・作成済みのデータを読むことができる

また自己チェックリスト管理ツールにより

- ・「自己チェックリスト100Excel版」で各職員がチェックして作成した「提出用データ」を集計できる
- ・保育園全体の到達度をレーダーチャートで確認できる
- ・保育園の苦手としている項目を洗い出して表示できる



# 保育科学研究及び保育界の進捗状況

＜報告者＞保育科学研究委員会副委員長 川崎 真  
坂崎 隆浩

保育科学研究会の進捗状況及び保育界の状況として、子ども・子育て新システムの検討体制等についての説明があった。

## 1. 趣旨

「子ども・子育て新システムの基本制度案要綱」(平成22年6月29日少子化社会対策会議決定)においては、「子ども・子育て支援のサービス・給付を、子ども・子育て当事者のニーズに即したものとするため、また、効果的かつ効率的な制度運用のため、地方公共団体、労使代表を含む負担者、子育て当事者、NPO等の子育て支援当事者が子育て支援の政策プロセス等に参画・関与することができる仕組みとして、国に子ども・子育て会議(仮称)を設置することを検討する。」とされている。

そのため、子ども・子育て新システムの検討に当たって、子ども・子育て新システムの全体像や子ども・子育て会議(仮称)の運営の在り方等について、上記の関係者と意見交換等を行う場として、基本制度ワーキングチーム(以下、「ワーキングチーム」という。)を開催する。

ワーキングチームは、子ども・子育て新システム検討会議作業グループの下に、設けるものとする。

なお、子ども・子育て新システム検討会議作業グループの下に設ける「幼保一体化ワーキングチーム」及び「こども指針(仮称)ワーキングチーム」における検討状況については、必要に応じて、ワーキングチームに報告するものとする。

## 2. 構成

- (1)ワーキングチームは別添に掲げる者をもって構成する。
- (2)座長は、ワーキングチームの議事を整理する。
- (3)座長は、必要に応じ、関係者の出席を求めることができる。
- (4)子ども・子育て新システム検討会議作業グループの構成員は、ワーキングチームに出席することができる。

## 3. 庶務

ワーキングチームの庶務は、子ども・子育て新システム検討会議事務局において処理する。

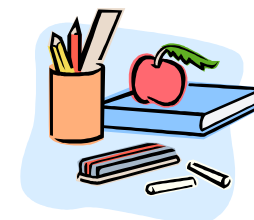
## 4. その他

この要項に定めるもののほか、ワーキングチームの運営に関し必要な事項は、座長がワーキングチームに諮り定める。



## 「基本制度ワーキングチーム」の構成員

|   |   |
|---|---|
| 〔座長〕 末松 義規<br>秋田 喜代美<br>池田 多津美<br>大日向 雅美<br>岡本 直美<br>奥山 千鶴子<br>尾崎 正直  | 内閣府副大臣<br>東京大学大学院教育学研究科教授<br>全国国公立幼稚園長会会長<br>恵泉女学園大学大学院平和学研究科教授<br>日本労働組合総連合会会長代行<br>NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長<br>全国知事会子ども手当・子育て支援プロジェクトチームメンバー・高   |
| 菊池 繁信<br>倉田 薫<br>駒村 康平<br>坂崎 隆浩<br>高尾 剛正<br>田中 常雅<br>田中 啓<br>中島 圭子<br>北條 泰雅<br>宮島 香澄<br>無藤 隆<br>両角 道代<br>山縣 文治<br>山口 洋<br>渡邊 廣吉 | 全国保育協議会副会長<br>全国市長会社会文教委員長・大阪府池田市長<br>慶応義塾大学経済学部教授<br>日本保育協会理事<br>日本経済団体連合会少子化対策委員会企画部会長<br>東京商工会議所少子高齢化問題委員会副委員長<br>静岡文化芸術大学文化政策学部准教授<br>日本労働組合総連合会総合政策局長<br>全日本私立幼稚園連合会副会長<br>日本テレビ放送網解説委員<br>白梅学園大学子ども学部教授<br>明治学院大学法学部教授<br>大阪市立大学生活科学部教授<br>日本子ども育成協議会副会長<br>全国町村会常任理事・新潟県聖籠町長 |



## 視察研修報告



8月24日「保育総合研究会」平成22年度子育て支援部会中四国視察研修として、当会会員の春日保育所 田和由里子先生、もとしろ保育園 筒井桂香先生の施設を見学させていただきました。  
ありがとうございました。

